

2010年6月5日(土) 入試説明会でいただいたご質問に対する回答

渡邊理事長が突然理事長をお辞めになってしまう可能性はありますか？

(回答) 渡邊理事長が本校理事長を辞めることはありません。

理事長は、学校運営のためにどれくらいの時間を割いていますか？

(回答) 週に一度曜日を決めて来校しています。時間については、前後のスケジュールにあわせて調整しています。常に報告があがる仕組みが来ていますので、いつも学校運営に関わっている状態です。

秋以降の説明会で理事長が講演される日程がわかれば教えていただきたいです(いつごろ確認できるようにになりますか?)

(回答) スケジュール調整をして、決定次第、ホームページ上でお知らせいたします。

いろいろ夢があるようですが、適正を考えてのご指導をしていただけますか。

(回答) 夢手帳の欄に「この夢を決めたきっかけ」・「自分の長所と短所」を書く欄があり、それらを見ながらカウンセリング時に担任と生徒が共に話し合いながら指導をしております。

夢がないという子どもも中にはいるのではないかと思いますので、その場合にどのように夢を持たせる指導を行っていくのでしょうか？

(回答) 必ずしも夢を持っていなければいけないとは思いません。常に何らかの目標を持ち、その実現に向けた行動を起こし、そのプロセスで多くの気づきや学びを経験することが重要であり、それが人間の成長にとって大事であると考えて指導に当たっています。

今の子どもたちは本当に夢を持っていないと思います(私も会社を経営しており、新卒者の面接を行います)。こちらの学校へ入学すれば、卒業時に本当に夢は持てるのでしょうか？

(回答) 必ずしも夢を待てるとは言いきれません。しかし常に何らかの目標を持ち、それを達成するために行動をしていくプロセスの段階が素敵なことであり、それが人間の成長にとって大事であることは常に指導をしています。その結果、夢を持っている生徒が大半です。

夢について考えるのに疲れた時のケア等はされているのでしょうか？

(回答) 夢とは考えるだけでわくわくするものであると思っています。疲れたときにこそ夢のことを考え、頑張りたいと思います。

子どもは現在、夢を持っていません。それでも入学できますか？

(回答) 夢を持っていることが入学条件にはなりません。そのままご入学ください。入学後、一緒に夢を見つけましょう。

ビデオを拝見すると、どのお子さんも大変に素直でまじめに見えます。人格形成教育において変化して行くのですか？

(回答) 本校では自分の夢を持ち、もしくは夢を探そうと努力をしている生徒が多いため、自然と前向きになる生徒は多いかもしれません。しかし人格形成は学校だけで築けるものではありません。ご家庭と学校が共通の認識を持って教育に当たることが大切であると考えております。

息子は中学で陸上部に入りたいと思っているのですが、クラブ活動でがんばった生徒にも表彰などはあるのでしょうか？

(回答) 本校では年度の最後に「郁文夢の日」という式典が行われ、学内で年間を通じて特に夢に向かって邁進した生徒を表彰しております。選考基準には夢を達成するためにクラブ活動を一生懸命頑張った生徒も入ります。ちなみに平成21年度はクラブ活動で頑張った生徒が表彰されました。

カンボジアのVTRがありました。希望者は全員参加できるのですか？

(回答) 募集定員は毎回30名です。過去2回の参加者数は、23名と21名でした。定員を超えた場合には抽選で決定することを事前に伝えてあります。

なぜ共学にしたのか？共学のメリット、デメリットを学校の運営などいろいろな視点からお答え頂ければ嬉しいです。

(回答) 本校で実施している夢教育は、社会に求められる人格をもつ人物の育成を目的としていますので、男子だけでなく、女子にも広めていきたいと考え、共学化プロジェクトを進めてまいりました。

わが子は男子校へ行きたいと言っていますが、共学になってどのように変わったか知りたかったです。

(回答) 校内の雰囲気以前に増して明るくなりました。

女の子がいろいろと相談できるようなシステムはあるのでしょうか？男子校だったのでそれが一番心配。

(回答) カウンセラー室、保健室に女性職員を増員し、相談しやすい環境を作っています。また、女性教員も人数を増やしていく予定です。

今後、とくに女子に留意した指導などの予定はおありでしょうか？

(回答) 身だしなみの指導には特に留意しています。

女子が入る部活はどんな種類があるのでしょうか？

(回答) どのクラブ活動でも対応する予定です。

女子のクラブ活動について HP で見る事が出来ませんでした。女子のクラブ活動がどのように行われているか拝見したいです。

(回答) ほとんどのクラブ活動に女子部員がいます。女子だけのクラブは、今のところチアリーディング部だけです。

クラブ活動と勉強のバランスについて、どのようにお考えですか。

(回答) 学年の「横のつながり」に加え、クラブ活動での先輩・後輩の「縦のつながり」も「人格形成」には欠かせない大切な要素です。また、授業以外にも学校に来る楽しみを持つことができる活動だと考えます。その観点から本校では「クラブ全員参加」を目標として指導しています。学習とのバランスについては、当然、学生の本分は勉強ですからクラブ一辺倒にならないよう、定期考査1週間前からクラブ活動を停止し、勉強に切り替えさせています。特に中学校では、定期考査2週間前からの「学習計画表」を作成させるなどして、計画的な学習を促しています。多くの生徒たちが、勉強とクラブ活動を見事に両立させ、大きな成果を残しています。

中学からの6年計画でのプログラムですが、高校からの入学でも中学から入学されている人たちと同じようにやっていけるのでしょうか？

(回答) 学習面、夢教育ともに同じようにやっていくことが出来ます。入学当初は、学習面、夢教育の部分で差はありますが、1年間で中学からの生徒に追いつくように指導しています。

確認テストや定期考査の際、理解度の低いと思われる生徒に対する補習や追加課題などの具体的な救済方法を教えてください。何割を合格点としていますか？

(回答) 毎回の定期考査では、テストの結果が60点未満と平常点の結果が70点未満の生徒に対し課題を与えています。各学期の成績で欠点(赤点)のものは課題を課し、次の学期に定着度確認テストを行っています。また、小テストで理解度の低い生徒に対しても、テスト直しや同じように課題を与えています。

あまりにいい話ばかりで、落ちこぼれになる子はいないのかと疑問に思いました。

(回答) 中学生では、1年生から英語と数学の補習・演習を習熟度別に行います。また、毎回の定期考査では、テストの結果が60点未満と平常点の結果が70点未満の生徒に対し課題を与えています。各学期の成績で欠点(赤点)のものは課題を課すとともに、次の学期に定着度確認テストを行っています。また、小テストで理解度の低い生徒に対しても、テスト直しや同じように課題を与えています。

帰国生に対する「取り出し授業」はありますか？

(回答) 必要に応じて行う準備をしています。

ニュージーランド留学以外の英語教育はどうなっていますか？

(回答) 中学3年間は、ネイティブによる英会話の授業があります。また、高等学校では、1、2年次に希望制の短期留学を行っています。

入試の際、教科ごとの足切り点は設定されているのですか？

(回答) 教科ごとの足切り点は設けていません。合計点で合否を判断します。

中学校の途中入学は行っていないのでしょうか？

(回答) 編入試験は行っていますが、家族での海外からの帰国、遠隔地からの一家転住が条件となります。

特奨入試と一般入試のスライド合格はありますか？

(回答) 特奨入試合格者は特進クラスを構成することになります。また、一般入試合格者は、入学手続き後に行われる学力診断テストにより特進クラスに入っていただくこともあります。

帰国子女の入試について教えてください。

(回答) 一般入試日2月11日に国内生と同じ入試を受けていただきます。面接もあります。ただし、帰国生は、それまでの学習の経緯を考慮いたします。

子どもは帰国子女です。郁文館の帰国生受け入れについてお聞かせください。

(回答) 郁文館へ入学後は国内生と同じクラスに入ります。担任と帰国生担当の教員が生徒の状態をよく見守り、折に触れて面談を実施し、精神面のケアを行います。もし学習について問題があれば、補習を行います。海外での生活が長い生徒はどのように教育をしたらその生徒のためになるのかを保護者の方と教員とで徹底的に話し合っ、望ましい方向性を見いだすように進路指導しています。以上のように日本社会への再適応に細心の注意を払います。

各国留学への詳細プログラムについて教えてください。

(回答) 現在はニュージーランドのみに生徒を送り出しております。入学後、すぐに留学説明会を実施し、留学の目的、留学の概要、そして留学に関するルールについて保護者・生徒に十分に説明を行います。それ以降、ニュージーランドについて、現地の学校での生活について、またホームステイについて保護者・生徒共に理解ができるようオリエンテーションを行います。9月初めには生徒一人ひとりが通う現地校を決定し(派遣する生徒数は現地校1校につき1名または2名です)、10月～11月に学生ビザを申請します。そして2学期末に高校1年生の単位認定を行い、1月末に現地に向けて出発いたします。またニュージーランドの現地校から本校生徒を担当して下さっている先生方が多数来校され、ニュージーランドのこと、学校のことについてお話しをされ、生徒の留学に向けてのモチベーションを高めて下さいます。このような現地校からの訪問は月に一回程度あります。また英語力については留学前に英検2級、TOEFL (Pre-TOEFL=正答率の高い問題を集めたテスト)で500点満点中400点を目指して、教員(日本人・外国人)が徹底指導いたします。また、留学費用はどの現地校に通うかで費用が異なりますので、個別に費用明細を作成し、9月に保護者の方に提示しております。

グローバル高校は帰国子女や英語が得意な人でないと入学できませんか？

(回答) 実際、帰国生の生徒はあまりいません。また英語が得意でなくともかまいません(英検3級程度の英語力はあると入学後、外国人の先生の授業に支障なくついて行けると思います)。入学後に十分に英語の指導はしますので、ご安心ください。

修学旅行は何処へ行くのですか？

(回答) 中学の修学旅行は、北海道に行きます。現地で、農業、漁業体験を行います。高校の修学旅行は、現在は北海道へ行っていますが、来年度以降にご入学される方はアジア方面への修学旅行となります。

不登校の生徒へのケアはホームページで知りました。実際、皆、元気に学校へ戻っているのでしょうか？

(回答) 不登校の原因は様々で、対応もケース・バイ・ケースとなります。生徒が学校生活へ復帰できるよう、根気強く対応しています。

進学のカウンセリングの他、心のカウンセリングも行っていますか？

(回答) スクールカウンセラーを2名から3名へ増員し、上級生が下級生を指導し、サポートする制度(ピア・サポート)も始めました。

校内におけるいじめの現状と、学校としての対応についてお聞かせください。

(回答) 学期毎にいじめのアンケートを実施し、いじめが発見された場合、事態が深刻になる前に徹底的に指導し、解決しています。